

○13番 恒吉弘翔君

育徳館中学校3年、恒吉弘翔です。私は、AI技術と公用車を生かした安全なまちづくりについて質問します。

私たちが毎日使用する通学路や市内の道路には、ひび割れや凹凸、穴が開いている場所があり、自転車の転倒や歩行者のつまずきなど、安全面で危険を感じています。市役所の職員の方々が、市内のすべての道路を見回って点検することは、時間や人手の面で大きな負担になっていると考えます。

現在、行橋市では、通学路や市内の道路の安全確保に向けて、どのような取り組みをされているのでしょうか。また、その取り組みの中で、どのような課題があるのでしょうか。

○後半議長 荒木優丞君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

議員のご質問にお答えします。

まず、行橋市では、道路の安全確保のために道路の維持管理において、複数の対応や取り組みを実施させていただいております。

具体的にはちょっと3つほど申し上げたいと思いますが、1つ目はですね、日常的な道路のパトロールです。これは人がやっております。職員が毎日の道路パトロールによって定期的な巡回を実施して、発見した道路の異常に対して、まずは簡易的な、応急処置的なものをする。場合によっては、大きな工事が必要な場合は予算をつけて工事をする、そういった対応をさせていただいております。

それから2つ目に関しましては、市民の皆さん方や通行人の方々からの通報や、あるいは地域からのご要望をいただく、そういったものに対しての対応になります。電話やメールなどでの通報を受け付けておりますし、休日においても、そういったことは対応できる範囲で対応させていただいております。

3つ目としましては、これは、ちょっと今度は、学校、教育委員会などからの観点になってきますが、通学路の安全確保という観点からです。警察、それから国・県・市の道路担当者などと、各小学校の関係者によります年1回の合同点検といったものを実施をしております。それによって、通学路の安全確認、安全確保に向けた取り組みをしております。実際にそこから上がってきたご意見をもとにして、通学路の整備、工事など、そういったものをさせていただいている状況でございます。

しかし、こういったものに関しましては、いくつか課題もございます。市道の延長は580キロに上りますので、すべての道路を適切なタイミングですべて見て点検すると

いうことは非常に難しいです。また、やはり職員の負担といったものが非常に大きくて、すべての危険箇所を早期に、そして確実に発見するというのは、非常に厳しい状況であると思います。こういったことが課題であるかというふうに考えております。以上です。

○後半議長 荒木優丞君

恒吉議員。

○13番 恒吉弘翔君

市長のご答弁ありがとうございます。現在の取り組みと課題がよく分かりました。

そこで私が提案したいのが、毎日市内を走っている、ごみ収集車や市の公用車に小型カメラを設置し、A Iが自動で道路の凹凸を検知記録するシステムの導入です。このシステムで、普段の業務の中で道路の異常を検知し、危険が深刻になる前に素早く修繕ができるようになると思います。

市長は、このようなデジタル技術を活用した道路点検と安全なまちづくりについて、どのようにお考えでしょうか。

○後半議長 荒木優丞君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えします。これはもう非常に重要な観点だと思います。ありとあらゆる分野で、今このI C T技術だけじゃなくて、A Iといったものを活用して、農業分野もそうですし、教育分野もそうですし、こういった安全管理、そういった部分でも、あらゆるシーンでやっぱりA Iといったものが出てきます。

例えばドローンを使うということもありますし、あるいは、いま議員がおっしゃったように、これ本当に非常に素晴らしいアイデアだと思いますけれども、既存の公用車だったり、ごみ収集車、こういったものにA Iのカメラを付けて、そしてA Iで解析させて、そして危険箇所などを発見していく、点検していく、こういったことは技術的には可能ですし、そういった取り組みは実際にございますので、こういったものもできればなど、そのように私自身も考えます。

ただ、これをやっていく上で、まずやっぱり課題となってくるものは、コストの部分なのかなと、お金の部分なのかなというふうに思います。ですので、いま議員がおっしゃったようなことをどれぐらいの規模で導入するか、この辺は、今後、具体的に試算をしていこうかなと、していくことができるのかなというふうに考えております。

そして、どれぐらいの規模になるか分かりませんが、規模によってはと言いますか、A Iだけで見れないところも実際はあるんですね。ですから、この辺はやはりミックス、A Iと、それから人間、この2つによって、そういった危険箇所、そういった

ものをチェックして対応していくと、そういったことを考えていくことができるのかな
と思っております。

今後も議員がおっしゃったような視点といったようなものをしっかりと大切にしながら、デジタル技術といったものをちゃんと活用していきながら、より安全で安心で、そしてコストも抑えられて、なおかつ職員の負担も減ると、そして市民満足度の向上につながる、市民の皆さん方の安全・安心につながる、そういったところを目指してまいりたいと、そのように思っております。以上です。

○後半議長 荒木優丞君

恒吉議員。

○13番 恒吉弘翔君

前向きな回答、ありがとうございます。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。